



特定非営利活動法人

子どもの村東北

発行：2015年10月30日
発行責任者：飯沼一宇
仙台市青葉区中央2-7-30角川ビル402

News Letter Vol.12

開村から一周年を前にして

村長 今野 和則

① 子どもたちの笑顔

現在入村している震災孤児を含め3人の子どもたちは、益々元気です。今年度中にさらに3人以上の受け入れを目指しています。兄弟が増えるように、子どもたちの笑顔が増えていくことを願っています。また、短期の預かりも震災孤児を含めて8人、それぞれ、1日から約2週間の日数でお預かりしました。近所の子どもたちも、放課後は村を訪れる子が増え、まさに名実ともに「子どもの村」と言えそうです。

② 自然の中で

村の子どもたちは、休日には農園作業にいそしみます。大豆、なす、キュウリ、ネギ、様々な野菜を無農薬で育てました。日よけの朝顔や、荒れ地にも強いひまわりとコスモスが、季節毎の美しい自然の彩りを見せてくれました。地域の坪沼農園にも出向き、農家のみなさまから指導を受けました。今も、大根、白菜が育っています。

③ ハーブ石鹼づくりは大好評!!

10月の半ば、3回に及んだ「ハーブ石鹼作り」の今年度の事業が終了しました。延べで合計71人の地域の方々やボランティアが参加し、ハーブ石鹼、ハーブクリームを作ったほかに、講師の先生手作りの化粧水やシャンプーもプレゼントされ、回を追う毎に参加者が増える大好評の会となりました。次年度は、ハーブ園を広げたり、挿し芽をして地域にハーブを増やしたりの活動を計画する予定です。

④ 芸術・文化も大切に

村を訪れる見学者や研修会等の参加者の数は、すでに1,600人を超きました。そのつど、社会的養護の理解者が着実に増えていることを感じます。「コンサート」「英語教室」震災ガレキでの「コースター作り」、「スライム作り」。支援者の好意で、地域の方々や子どもたちと共に、芸術・文化活動も楽しみました。製作3ヶ月に及んだ仙台七夕飾りは、祭りの後、杜のホールに展示され、訪れる方に喜ばれています。

⑤ 「笑顔」、「環境」、「安心・安全・エコ」、加えて「芸術・文化」

子どもを中心に置いてのこれら4つのテーマは、開村から一年を迎える村で、益々大事にし続けています。

⑥ アルバム



ひな鳥と戯れる村の子



西村呉服店様と子どもたちが
コラボした七夕飾り



上原彩子様による「出張せんくら」



岸本美幸先生とのハーブ石鹼作り



関井うらら様、小瀧俊治様による
チャリティーコンサート



村に咲くコスモス



■人材研修 - 社会的養護について学ぶ

7月25日第4期人材研修②では、橋本和明先生（花園大学教授）にお越しいただき「虐待と非行」という題でご講演いただきました。非行には様々な背景があり、虐待などが関わっていることも近年では明らかになっています。非行臨床の分野では、加害者が被害者であったり、被害者が加害者になったりなどの逆転現象や反復現象などが起こります。橋本先生には、虐待が子どもに影響を及ぼすことで、人間関係に課題を抱えてしまうことや、そのメカニズムについてお話をしていただきました。

橋本先生は長年、家庭裁判所調査官として非行臨床の立場から様々な問題について研究をされています。「虐待」と「非行」と「発達障害」は本来関係が遠いはずなのですが、対応いかんで「虐待」「非行」「発達障害」の関係が近くなっています。私たちの人間関係のありかたを考え直してみることからはじめていくことが肝要ではないか、との提言を頂きました。

さらに、子育ては決してマニュアルどおりにはいかず、発達のしかたは千差万別であることから、子育てに正解はないということがもっとスタンダードになっていくことがポイントであるとのお話しがありました。



橋本和明先生



橋本先生の講演の様子

9月12日の人材養成研修③では、大澤智子先生（兵庫県こころのケアセンター研究主幹）にお越しいただき、「里親のメンタルヘルス」というテーマでご講演いただきました。

第1部では、トラウマ経験者が語る体験を、繰り返し暴露されることで、支援者が「二次受傷」し、対人援助による「燃え尽き症候群」、「うつ状態」などに陥ることについてお話しを頂き、その対処策や早期発見や介入の必要性などについて学びました。

第2部では、グループワークのほか、参加者自身のストレス反応チェックを行い、参加者自身が自分のこころや身体のことを感じたり、理解する機会を得ました。



大澤智子先生



大澤先生の講演の様子



育親、スタッフ、理事が参加した内部研修の様子

同日には、内部研修という形で、九州大学大学院の松崎佳子先生から「Quality 4 Children Standards」について講演いただきました。タイトルにある「Quality 4 Children Standards」とは、欧州の家庭外養育における質の基準のことです。この欧州での家庭外養育における質の向上への取組を知り、「子どもの最善の利益の質」とは何かを考える機会となりました。

わが国でも子どもの権利条約批准から20年が経過し、今年から宮城県では「宮城県家庭的養護推進計画」という15年計画を策定し、平成41年までの長期的なビジョンを掲げて進められることとなりました。家庭的養護の推進、家庭養護の質を高めるとともに、一時保護委託なども含めた社会的養護を必要とする子どもたちを支えていくことを推進していく流れとなります。子どもの村もその担い手として日々励んでいきたいと思います。

今年度の第4期人材養成研修は、子ども☆はぐくみファンド（地域創造基金さなぶり × セーブザチルドレンジャパン）からの助成により実施することができました。子どもの村の背骨となる事業をご支援いただき、ありがとうございました。

11月29日（日）には、宮城県なごみの会等との共催で「もうひとつの絆フォーラム8」を泉中央のびすくホール（仙台市泉区）で開催します。里親養育に限らず、子育てに関心のある皆様方のご参加をお待ちしております。詳しくは、ホームページをご覧頂くか、お電話でお問合せください。

■ 村だより “支援者に聞く” ■

■ スウェーデン発祥の世界最大級の家具店。東日本大震災では各地で多くの支援を行ない、村の家の建設費を提供したほか、家具やインテリアを支援。



IKEA 仙台 ストアマネージャー
イマン モンファレード 様



イケアにできる事は何か。2011年3月に起きた東日本大震災では、それまでの生活を奪われた方たちのために、まず避難所に布団や水などのお届けを始め、仮設住宅には鍋や布団などの新生活スターターキットを寄付いたしました。さらに、活動を長期的に継続するためには拠点となる場所が必要と考え、仙台市泉区に2011年9月、ミニショップをオープンさせました。そして、ミニショップの売上を地域貢献に活かすために、「東日本こどもプロジェクト」を立ち上げました。

イケアの経営コンセプトでは、子どもを一番に考えています。そこで、「東日本こどもプロジェクト」の中でもまず、スタッフが遊びのプログラムを提供するハッピープレイバスで保育施設など91か所も回りました。その他にも、保育や遊び場・学習の場への家具の支援や建物の建設支援も行いました。その一環が、子どもの村東北の家族の家1棟の建設費や家族の家3棟とセンターハウスで使用する家具の支援です。東北の未来をつくる子どもたちのために良い環境を提供するという私たちのプロジェクトと、子どもの村のコンセプトには多くの共通点があると感じました。思いは多くのスタッフにも伝わり、開村前の家具の組み立ての際には、全国のイケアの店舗スタッフがボランティアで駆けつけました。

先日、村を訪問してきました。各お家にお母さん(育親)さんがいて子どもたちが安心して暮らせる環境が整えられ、私たちが支援した建物や家具が使われ、とてもうれしく感じました。お役に立つことができ、本当によかったです。今後も子どもたちの成長を見守りながら、子どもたちとスタッフの交流や社会体験、ボランティアなどさまざまな形の支援を考えてみたいと思っています。

2014年7月に大型のIKEA仙台を長町にオープンさせました。今後はこの店舗を中心にこの地に根差し、さらに明るい東北になるように貢献して行きたいと思っています。

■ 村のある茂庭台団地に30年以上暮らす。
村のボランティアとしてさまざまな活動で活躍中。



ボランティア
津田 正敏 様



村長と語らう津田様

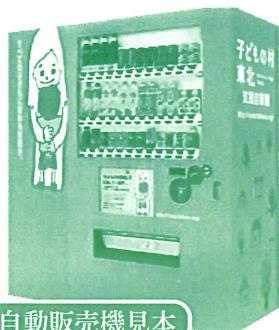
長年、茂庭台に暮らし民生委員児童委員をしていたこともあって、子どもの村の開村式が終わって少し経った2015年1月ごろ、センターハウスに伺ったんです。今野村長から、子どもの村は震災やさまざまな事情で親と暮らせなくなった子どもたちを自立するまで家庭的に養育することや、オーストリアのSOS子どもの村の話を聞き、その国の子育てや伝統的営みを大切にしながら、子どもを養育していくこうとする村の取り組みに共感しました。

どんなかかわり方があるかな?何ができるかな?と考える中でボランティアを探していることを知り、村で行われる行事の際に子どもたちのお世話をすることにしました。最初は、ハーブ石鹼作りの時のボランティアでした。お母さん方が石鹼作りをしている間、どんなことをして子どもたちを楽しませるかずいぶん考え、スライムづくり(*)をすることにしました。スライムづくりは何度か経験があって、子どもたちが喜ぶ姿を見ていたんですよ。初回は5人の子どもたちと行ったのですが、初めて会った子どもたちもすぐに仲良くなってくれ、ヌルヌルするスライムの感覚と綺麗な色彩に笑顔が絶えませんでした。その時、村の子どもも参加して、私をサポートして小さな子どもたちの面倒をみてくれました。3回目の時は、参加できなかった私の代わりに、その子が先生役になって小さな子どもたちにスライムづくりを教えてくれたんです。一度経験した子どもたちが、初めて体験する子どもたちを自発的に教えてくれる、そんな良いサイクルが生まれたこと、子どもの自発性も引き出せる結果になったことを聞いて、とてもうれしく感じました。

今後は、村の環境整備のお手伝いもしてみようと思っています。これからも、ボランティアという形で子どもの村とかかわりながら、子どもたちの成長を見守っていきたいですね。

*スライムづくり=スライムはヌルヌル、どろどろした半固体の物質で、玩具や教材として使われている。身近な材料を使い絵具で着色して、手づくりも楽しめる。

◆子どもの村東北支援自動販売機・募金箱の設置先を探しています



自動販売機見本

子どもの村東北では、コカ・コーラライーストジャパン㈱（仙台コカ・コーラボトリング㈱）と共同で「子どもの村東北支援自動販売機」を展開をしています。この自販機による清涼飲料水の売上のおよが子どもの村東北の運営資金となります。現在12基が設置されていますが、さらなる設置先を探しています。

現在展開できるエリアは、宮城県・山形県・福島県、それに関東地区を含む広いエリアです。既設の自販機を切り替えるのではなく、新規・増設でのご検討をお願いしています。皆様の知人友人、勤務先、行きつけの飲食店など、広くお声をかけて頂けますと幸いです。

関心を示してくださる方の情報を法人事務局までご連絡いただければ、こちらから詳しいご説明をさせていただきます。ぜひご紹介ください。よろしくお願ひいたします。

また、スーパーやコンビニなどの店舗レジ横や、病院やレジャー施設、会社の受付など、募金箱の設置場所を探しています。横幅約10cm、高さも約20cmと、とてもスマートで場所を取らない大きさの募金箱です。レジ横の狭いスペースにも置きやすいので、ぜひ設置をご検討ください。

募金箱とセットで、リーフレットを専用のスタンドに立てていただきたり、募金を呼びかけるA4のPOPもご用意できます。

自動販売機や募金箱については、法人事務局にお問合せいただきか、ホームページの「協力する方法」からご覧ください。

【募金箱サイズ】

幅：約10cm
奥行：約10cm
高さ：約20cm

募金箱見本



◆多くの企業・市民の皆さんに一層のご支援をお願いいたします◆

■支援方法1：支援会員として継続的な支援寄付により支えてください。

◎個人の方

寄付額は任意ですが、年間3,000円以上でお願い出来れば幸いです。

◎企業・団体の方

寄付額は任意ですが、年間30,000円以上でお願い出来れば幸いです。

■支援方法2：ご寄付をお願いいたします。

金額は問いません。いつでもお受けいたします。

■支援方法3：ボランティア募集中！

仙台市中心部のクリスロード近くにある法人事務局での事務作業やチラシの折り込み作業。街頭での募金活動やチラシ配り。茂庭台にある子どもの村での草取りや日曜大工など、得意な分野で無理のない範囲でご協力ください。いつでもご連絡をお待ちしています。

◆ご支援いただいた企業・団体のみなさま（2015年7月16日～2015年10月28日）

有限会社白川牛肉店、国際ソロプロチミスト石巻サン・ファン、株式会社大観樓、株式会社クリーン&クリーン、医療法人みやぎクリニック仙台画像検診クリニック、医療法人盟陽会富谷中央病院、ピジョン株式会社、東北大学小児科同窓会、株式会社ホームユニバース、合資会社山久商店、有限会社華丸ラーメン、株式会社鐘崎、さくら工房株式会社、トヨタカローラ宮城株式会社、和みダイニングきりん、有限会社細谷ドライクリーニング工場、顯正寺てづくりコンサートの会、Shanti Yoga、ほそや小児科、特定非営利活動法人ワンファミリー仙台、御殿場市ガールスカウト、仙台市主任児童委員部会、岩沼市民生委員児童委員協議会、国際ソロプロチミスト高岡、ドイツメアブッシュ市光山ピアノ教室、仙台ニューヨーク友の会、暮らしに押しばなをの会、FMCC ふくおは、フォトスタジオ fhans 福知山、仙台西ロータリークラブ、MIDORI TANAKA STAUDINGER, KIFUKIN IM BUEHLE 14、国際ソロプロチミスト太宰府、燕沢地区民生委員児童委員協議会、宮城県遊技業協同組合、仙台青葉学院短期大学こども学科、スイーツビジョン、林間聖バルナバ教会、ドイツ語婦人会、株式会社小泉東北仙台営業所、なかがわふるさと夢工房、ザ・レジェンド・チャリティプロアマトーナメント実行委員会、トヨタ自動車株式会社

*敬称略・順不同

◆支援会員

*個人会員 673名

*団体会員 50企業・団体

2015年10月28日現在

Web & Facebook ヘーケスス ▷▷ URL <http://cvtohoku.org/>
 子どもの村の今をご覧ください ▷▷ Facebook <https://www.facebook.com/cvtohoku>

特定非営利活動法人 **子どもの村 東北**

法人 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30 角川ビル402
 事務局 TEL: 022-748-6936 FAX: 022-748-6931 E-mail: info@cvtohoku.org

【子どもの村 センターハウス】
 〒982-0252 仙台市太白区茂庭台2丁目16-9-1
 TEL: 022-281-9653 FAX: 022-281-9659
 E-mail: center-t@cvtohoku.org